

2018年 北東アジア地域自治体連合（NEAR）
環境分科委員会報告資料



日本国富山県
(2019年3月)

目 次

I	環境分科委員会の活動状況	1
1	第13回環境分科委員会の開催	1
2	個別プロジェクトに関する調査の実施	2
II	個別プロジェクト	3
1	2018年個別プロジェクト	3
1-1	提案プロジェクト	3
1-2	各自治体の参加状況	3
1-3	プロジェクトの実施状況	4
(1)	プロジェクトNo. 1 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業（富山県）	4
(2)	プロジェクトNo. 2 漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業（富山県）	6
(3)	プロジェクトNo. 3 北東アジア地域環境ポスター展（沿海地方）	8
(4)	プロジェクトNo. 4 海岸生物調査（富山県）	9
(5)	プロジェクトNo. 5 貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム（忠清南道）	10
2	2019年個別プロジェクト	11
2-1	提案プロジェクト	11
2-2	各自治体の参加意向調査結果	11
2-3	提案状況	12
(1)	プロジェクトNo. 1 北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業 （ハバロフスク地方、富山県）	12
(2)	プロジェクトNo. 2 漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業（富山県）	13
(3)	プロジェクトNo. 3 北東アジア地域環境ポスター展（富山県）	15
(4)	プロジェクトNo. 4 海岸生物調査（富山県）	16
(5)	プロジェクトNo. 5 貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム（忠清南道）	17
(6)	プロジェクトNo. 6 フォトコンテスト“Eco-selfie－自撮りで環境保護” （トムスク州）	18
III	次期コーディネート自治体	19
1	次期コーディネート自治体の希望調査の実施	19
2	調査結果	19
IV	環境分科委員会の活動計画	19

I 環境分科委員会の活動状況

1 第13回環境分科委員会の開催

(1) 開催日 2017年10月12日

(2) 参加自治体 5か国9自治体

日本(2) 山形県、富山県
韓国(3) 江原道、忠清南道、慶尚南道
モンゴル(2) ドルノド県、中央県
ロシア(1) ハバロフスク地方
(オブザーバー)
中国(1) 遼寧省

(3) 会議の結果

① 次期コーディネート自治体の選出

次期コーディネート自治体として、富山県が選出された。

(任期：2017年7月14日～2019年7月13日)

② プロジェクトの実施状況及び活動報告(2017年)

提案自治体から、2017年の個別プロジェクトの実施状況について報告された。

2017年個別プロジェクト名	提案自治体
北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	慶尚南道・富山県
海辺の漂着物調査と漂着物アート制作	富山県
北東アジア地域環境ポスター展	富山県
海岸生物調査	富山県

③ 2018年プロジェクトの提案説明

各提案自治体から、2018年に実施を希望する2件の新規プロジェクトと3件の継続プロジェクトが提案され、参加者の同意により実施されることになった。

2018年個別プロジェクト名	提案自治体
北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業(継続)	富山県
漂着物の発生抑制に関する環境学習・啓発プログラム(仮) (新規)	富山県
北東アジア地域環境ポスター展(継続)	沿海地方
海岸生物調査(継続)	富山県
貝類(カキ)を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム(新規)	忠清南道

④ 各自治体の先進的な環境施策に関する情報交換

富山県、遼寧省、江原道及びハバロフスク地方から先進的な環境施策に関する発表があった。

また、翌13日には、参加者がイタイイタイ病資料館を視察した。

発表内容	発表自治体
イタイイタイ病の歴史と克服に向けた取組み	富山県
遼寧省農村部における生活ごみの分別処理	遼寧省
2018平昌(PyeongChang)低炭素グリーンオリンピック開催	江原道
ハバロフスク地方での環境年	ハバロフスク地方



会議の様子



イタイイタイ病資料館視察の様子

2 個別プロジェクトに関する調査の実施

- (1) 2018年個別プロジェクトの参加意向調査の実施 (2018年 3月)
- (2) 2018年個別プロジェクトの実施状況調査の実施 (2019年 1月)
- (3) 2019年個別プロジェクトの提案調査の実施 (2018年 9月)
- (4) 2019年個別プロジェクトの参加意向調査の実施 (2018年 11月)

II 個別プロジェクト

1 2018年個別プロジェクト

1-1 提案プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	富山県
2	漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	沿海地方
4	海岸生物調査	富山県
5	貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム	忠清南道

1-2 各自治体の参加状況 (◎：提案自治体 ○：参加自治体)

プロジェクト No.		1	2	3	4	5
自治体名		活動リーダー	漂着物	ポスター	生物調査※	ブルーカーボン
中国	遼寧省	○	—	—	—	—
	黒龍江省	○	—	○	—	—
日本	青森県	—	—	—	○	—
	秋田県	—	○	—	—	—
	山形県	—	○	—	—	—
	新潟県	—	—	—	—	—
	富山県	◎	◎	○	◎	○
	石川県	—	○	—	○	—
	福井県	—	○	—	○	—
	京都府	—	○	—	—	—
	兵庫県	—	—	—	—	—
	鳥取県	—	○	—	—	—
	島根県	—	○	—	—	—
	山口県	—	○	—	○	—
	佐賀県	—	○	—	—	—
長崎県	—	○	—	—	—	
韓国	江原道	○	○	○	—	—
	忠清南道	—	—	○	○	◎
	慶尚南道	○	○	○	—	—
モンゴル	ドルノド県	—	—	—	—	—
	中央県	—	—	—	—	—
ロシア	沿海地方	○	○	◎	○	○
	ハバロフスク地方	○	○	○	○	○
	トムスク州	○	—	○	—	—
参加自治体数		8	15	8	8	4

※水族館等の機関が独自に実施したものを含む

1-3 プロジェクトの実施状況

(1) プロジェクト No. 1 「北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業」(富山県)

① 目的

自治体・経済界・学界が連携し、青少年に対して北東アジア地域における環境問題を直に見聞し、環境保全活動(環境ボランティア活動)を体験する機会を提供することで、現状への認識と国際環境協力に対する理解を深め、自ら行動できる人材を育成する。

② 事業内容

- a. 実施時期 2018年8月21日~22日
- b. 実施場所 中国遼寧省瀋陽市「遼寧大廈」ほか
- c. テーマ 「湿地文化と都市生活」
- d. 活動内容
 - ・各参加自治体の代表者からの活動発表
 - ・五里河公園(湿地)、鉄嶺市蓮花湖湿地、瀋陽大学自然博物館の視察
 - ・ごみの分別クイズ大会
 - ・「2018 遼寧省環境宣言文」の発表
- e. 参加自治体
 - 4か国8自治体(中高生 176名)
 - 中国:遼寧省、黒龍江省
 - 日本:富山県
 - 韓国:江原道、慶尚南道
 - ロシア:沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州
- f. 開催風景



活動発表



ごみの分別クイズ大会

③ 2017年度事業結果

- a. 実施時期 2017年8月17日~18日
- b. 実施場所 慶尚南道統営市 「RCE 統営」ほか
- c. テーマ 「国境のない自然環境保全活動の実践」
- d. 活動内容
 - ・各参加自治体の代表者からの活動発表
 - ・ポスターセッション
 - ・自然(湿地や池、動植物)を活用した排水の浄化設備の視察及び草木染め体験
 - ・「2017 慶尚南道環境宣言文」の発表

e. 参加自治体

4か国9自治体（中高生等59名）

中国：遼寧省、黒龍江省

日本：富山県

韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州

f. 開催風景



活動発表



ポスターセッション

g. その他

実施結果は、ウェブサイトに掲載

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/youth/index.html

(2) プロジェクト No. 2 「漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業」(富山県)

① 目的

海岸漂着物の調査活動に加え、環日本海地域の沿岸自治体での取組みも含めた発生抑制対策に関する学習会を実施することで、上流域から沿岸地域までの漂着物・ごみ問題についての理解を深め、子供達や地域住民の「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心」を育み、日常生活から始めることのできる発生抑制のための行動を促進する。

② 事業内容

a. 実施時期

- (a) 漂着物調査活動：2018年6～11月（原則として秋季に実施）
- (b) 漂着物アート制作：通年

b. 実施場所：

- (a) 漂着物調査活動：参加自治体の海・河川（内陸河川を除く。）の沿岸地域
- (b) 漂着物アート制作：各参加自治体内の会場等

c. 実施方法

(a) 漂着物調査活動

- ・調査は各自治体が地元の小中高等学校、民間団体等の参加を得て実施
- ・調査活動と合わせて海洋ごみの発生抑制に関する学習を実施
- ・調査結果は富山県（(公財)環日本海環境協力センター（NPEC））がとりまとめを行う
- ・調査項目にマイクロプラスチック（直径5mm以下のプラスチックごみ）を追加（簡易調査にて実施）

(b) 漂着物アート制作

- ・富山県が提供する手引書等も参考にして、各自治体が地元の実状に応じて、学生、住民等の参加を得て実施

d. 参加自治体：

3か国 15自治体

日本：秋田県、山形県、富山県、石川県、福井県、京都府、鳥取県、島根県、山口県、佐賀県、長崎県

韓国：江原道、慶尚南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

e. 開催風景：



漂着物調査活動（富山県）



漂着物アート制作（富山県）

③ 2017 年度事業結果

a. 参加自治体

北東アジア地域自治体連合会員とその他の自治体を合わせた 16 自治体

b. その他

3 か国 16 自治体の 54 海岸で調査を実施

実施結果報告書は、ウェブサイト（「海洋ごみポータルサイト」）に掲載

<http://www.npec.or.jp/umigomiportal/result/index.html>

(3) プロジェクト No. 3 「北東アジア地域環境ポスター展」(沿海地方)

① 目的

北東アジア地域の次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

② 事業内容

- a. 実施時期 2018年10月～11月
- b. 実施場所 沿海地方ウラジオストク市 青少年創造センター
- c. 実施方法
 - ・参加自治体から作品送付(7月～9月)
 - ・環境ポスター展の開催(10月～11月)
 - ・参加自治体へ作品返却
- d. 参加自治体
4か国8自治体
 - 中国：黒龍江省
 - 日本：富山県
 - 韓国：江原道、忠清南道、慶尚南道
 - ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州
- e. 展示枚数 110枚
- f. 見学者数 3,700人
- g. 開催風景



③ 2017年度事業結果

- a. 実施時期 2017年10月
- b. 実施場所 黒龍江省ハルビン市 永泰ショッピングセンター内「永泰世界」
- c. 参加自治体
4か国6自治体
 - 中国：黒龍江省
 - 日本：富山県
 - 韓国：江原道
 - ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方、トムスク州
- d. 展示枚数 68枚
- e. その他 実施結果は、ウェブサイトに掲載
http://www.npec.or.jp/northeast_asia/introduction/page03.html

(4) プロジェクト No. 4 「海岸生物調査」(富山県)

① 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

② 事業内容

a. 実施時期 2018年7月～9月(連絡会議11月14日)

b. 実施場所 各参加自治体の海岸

c. 実施方法

- ・海洋生物多様性保全関係機関連絡会議が調査の実施方法を取りまとめたマニュアルを参加自治体と共有(各国語版を作成し、ウェブサイトで公開)
- ・海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPOや専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
- ・地球温暖化や外来生物に係る指標生物の存在有無の確認
- ・調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターが取りまとめ、ウェブサイトを通じて情報発信

d. 参加自治体

3か国8自治体

日 本：青森県、富山県、石川県、福井県、山口県

韓 国：忠清南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

e. 開催風景



③ 2017年度事業結果

a. 実施時期 2017年7月～9月(連絡会議11月30日)

b. 参加自治体

3か国8自治体

日 本：青森県、富山県、石川県、福井県、山口県

韓 国：忠清南道

ロシア：沿海地方、ハバロフスク地方

c. その他 連絡会議にて各機関から結果報告を行った。

(5) プロジェクト No. 5 「貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育
体験プログラム」(忠清南道)

① 目的

青少年の沿岸環境教育体験を通じて、沿岸生態系ブルーカーボンの重要性を認識するとともに、環境教育及び沿岸生態環境保全の重要性を改めて認識する。

② 事業内容

a. 実施時期 2018年2月～12月

b. 実施場所 各参加自治体の海岸

c. 実施方法

(a) 稚貝を放流(養殖)し、ある程度成貝になってから採取し、その成長を確認(放流時または実施期間中1回、採取時1回の計2回計測)し、炭素固定量を調査

(b) 成貝になるまでに水中の炭素が体の中に貯蔵されていく炭素固定過程等を学習

<学習例>

・ 貝類の自然浄化機能学習

・ 採取した物で料理し試食体験

(炭素循環(養殖(生産)→採集(漁獲)→飲食(消費))に対する学習)

・ 貝塚及び貝塚博物館の見学、または、貝類、貝殻を活用した作品作り

(貝塚の炭素隔離を活用し、ブルーカーボンの概念を理解、周辺環境及び実生活に適用できる方法について討論)

(c) 結果報告

d. 参加自治体

3か国4自治体

日 本：富山県

韓 国：忠清南道

ロシ ア：沿海地方、ハバロフスク地方

e. 開催風景



ブルーカーボン理論教育学習



実習調査

2 2019年個別プロジェクト

2-1 提案プロジェクト

No.	プロジェクト名	提案自治体
1	北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業	ハバロフスク地方・富山県
2	漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業	富山県
3	北東アジア地域環境ポスター展	富山県
4	海岸生物調査	富山県
5	貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム	忠清南道
6	フォトコンテスト“Eco-selfie - 自撮りで環境保護”	トムスク州

2-2 各自治体の参加意向調査結果 (◎：提案自治体 ○：参加意向自治体)

プロジェクト No.		1	2	3	4	5	6
自治体名		活動リーダー	漂着物	ポスター	生物調査	ブルーカーボン	フォトコンテスト
中国	遼寧省	○	—	—	—	—	—
	黒龍江省	○	—	○	—	—	—
日本	青森県	—	—	—	—	—	—
	秋田県	—	—	—	—	—	—
	山形県	—	○	—	—	—	—
	新潟県	—	—	—	—	—	—
	富山県	◎	◎	◎	◎	○	○
	石川県	—	○	—	○	—	—
	福井県	—	○	—	○	—	—
	京都府	—	—	—	—	—	—
	兵庫県	—	—	—	—	—	—
	鳥取県	—	○	—	○	—	—
	島根県	—	○	—	—	—	—
	山口県	—	○	—	—	—	—
	佐賀県	—	○	—	—	—	—
長崎県	—	○	—	—	—	—	
韓国	江原道	○	○	○	—	—	—
	忠清南道	○	○	○	—	◎	—
	慶尚南道	○	○	○	—	—	○
モンゴル	ドルノド県	—	—	—	—	—	—
	中央県	—	—	—	—	—	—
ロシア	沿海地方	○	○	○	○	○	○
	ハバロフスク地方	◎	○	○	○	○	○
	イルクーツク州	—	○	—	—	—	—
	トムスク州	○	—	○	—	—	◎
参加意向自治体数		9	15	8	6	4	5

2-3 提案状況

(1) プロジェクト No. 1 「北東アジア青少年環境活動リーダー育成事業」

(ハバロフスク地方、富山県)

① 目的

自治体・経済界・学界が連携し、青少年に対して北東アジア地域における環境問題を直に見聞し、環境保全活動（環境ボランティア活動）を体験する機会を提供することで、現状への認識と国際環境協力に対する理解を深め、自ら行動できる人材を育成する。

② 事業内容

a. 実施時期 2019年8月

b. 実施場所 ロシアハバロフスク地方

c. 実施方法等

開催自治体がテーマを選定し、実施

参加者数：各参加自治体8名程度（青少年6名、指導者2名）を予定

d. 年間計画

5月頃 参加者募集

8月 事業実施

e. 期待される成果

- ・北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まるとともに、環境保全活動への参加意欲の向上が期待できる。また、環境保全活動等にも取り組むことで参加者間の連帯感が生まれ、国際的なネットワークの構築につながる。
- ・環境問題解決に主体的に参画し、提案できる人材の育成が期待できる。

③ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請の内容

開催自治体 テーマの企画、参加者の募集、ワークショップ等の開催
地元の経済界や学界への協力要請

参加自治体 参加者の募集・派遣

b. 経費負担の要請

(a) 経費負担の有無

あり

(b) 経費負担の概要

- ・開催自治体への渡航費は参加自治体が負担する。
- ・現地滞在費及びワークショップ開催費用については、開催自治体が負担する。

(2) プロジェクト No. 2 「漂着物の発生抑制に関する学習・啓発事業」(富山県)

① 目的

海岸漂着物の調査活動に加え、環日本海地域の沿岸自治体での取組みも含めた発生抑制対策に関する学習会を実施することで、上流域から沿岸地域までの漂着物・ごみ問題についての理解を深め、子供達や地域住民の「ごみを捨てない心、海の環境を守ろうとする心」を育み、日常生活から始めることのできる発生抑制のための行動を促進する。

② 事業内容

子供や市民の参加を得て、漂着物調査活動及び排出抑制対策に関する学習会を行う。また、可能な自治体においては、漂着物や家庭から出る廃材を利用したアート作品の制作を行う。

a. 漂着物調査活動

(a) 実施時期：2019 年秋季

(b) 実施場所：参加自治体の海・河川（内陸河川を除く。）の沿岸地域

(c) 実施方法：・各参加自治体が地元の小中高等学校、民間団体等の参加を得て、調査活動と学習会を実施（内陸部の自治体は、清掃活動と学習会を実施）
・実施結果は富山県（(公財)環日本海環境協力センター（NPEC））がとりまとめを行う。

(d) その他：・学習会は、海岸での漂着物の撤去だけでなく、上流域における発生抑制の重要性をテーマに、既存教材、NPEC ウェブサイトに掲載されている資料等を活用して海外の取組み紹介も含めて実施
・2018 年から調査項目にマイクロプラスチック（直径 5mm 以下のプラスチックごみ）を追加（簡易調査にて実施）

b. 漂着物アート制作

(a) 実施時期：通年

(b) 実施場所：各参加自治体内の会場等

(c) 実施方法：富山県が提供する手引書等も参考にして、各自治体が地元の実情に応じて、学生、住民等の参加を得て実施

③ 期待される成果

「ごみを捨てない心、海洋環境を守ろうとする心」を育むとともに、住民の環境保全に対する意識を高揚する。

④ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請の内容：

(a) 漂着物調査活動

- ・実施場所の選定
- ・学習会・調査活動を実施する民間団体等の確保
- ・学習会・調査活動を実施する民間団体等の指導、学習会・調査活動の実施
- ・実施結果の富山県への報告

(b) 漂着物アート制作

- ・活動の企画、関係者との調整、参加者の募集等
- ・漂着物等の素材、活動に使用する道具等の準備
- ・住民等の参加による活動の実施、結果のまとめと報告

b. 経費負担の要請

(a) 経費負担の有無
あり

(b) 経費負担の概要

i) 海辺の漂着物調査

・ 必要な経費は参加自治体による負担とする。

ただし、巻尺、ピンセット、はかりなど調査に必要な機材の購入代や、移動に伴うガソリン代、写真現像代などの経費の一部を、富山県が予算の範囲内で負担する予定。

ii) 漂着物アート制作

・ 必要な経費は参加自治体による負担とする。

(3) プロジェクト No. 3 「北東アジア地域環境ポスター展」(富山県)

① 目的

北東アジア地域の次代を担う子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を展示することにより、市民の北東アジア地域の環境保全意識を一層深める機会とする。

② 事業内容

a. 実施時期

2019 年秋季

b. 実施場所

日本富山県

c. 実施方法

- ・各参加自治体内で子供たち（小中学生、高校生を対象）から作品募集、審査
- ・各参加自治体が優秀作品を開催自治体に送付
- ・開催自治体で各参加自治体の作品展示、普及啓発を実施

d. 年間計画

4 月～7 月 参加自治体との連絡調整、作品募集、送付

秋季 環境ポスター展の開催

1 月～3 月 作品返送

ウェブサイトに結果を掲載

e. 期待される成果

北東アジア地域の環境問題に対する理解や共通認識が深まる。

③ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請内容

(a) 開催自治体

- ・参加自治体への開催通知、優秀作品の送付依頼
- ・開催自治体内で作品募集、審査
- ・参加自治体から送付された作品でポスター展を開催、普及啓発の実施
- ・作品返却希望の参加自治体に作品を返却
- ・ウェブサイトに結果を掲載

(b) 参加自治体

- ・参加自治体内で作品募集、審査
- ・優秀作品（タイトル、作者のメッセージ等とあわせて）を開催自治体に送付
（2019 年の募集作品が時期的に送付できない場合は、2018 年の作品でもよい）
- ・優秀作品を電子化し、(公財)環日本海環境協力センター（NPEC）に送付
- ・併せて作品の返却の可否を連絡

b. 経費負担の要請

(a) 経費負担の有無

あり

(b) 経費負担の概要

- ・ポスター展や普及啓発イベント等の開催費用は、開催自治体が負担する。
- ・参加自治体から開催自治体への作品の送料は、参加自治体が負担する。
- ・開催自治体から参加自治体への作品の返送の費用は、開催自治体が負担する。

(4) プロジェクト No. 4 「海岸生物調査」(富山県)

① 目的

北東アジア地域の海洋生物多様性の保全に向けて、各地域に生息する生物に関する情報の収集、指標生物の生息調査を実施する。本調査を通じて、一般市民・子供たちの海の生物への興味を深めてもらい、環境保全・生物多様性保全の意識高揚を図る。

② 事業内容

a. 実施時期

年1回程度

b. 実施場所

参加自治体の海岸（多くの生物が生息する岩場や磯場が望ましい）

c. 実施方法

- ・(公財)環日本海環境協力センターが作成した調査マニュアルに基づいて実施し、参加自治体と共有
- ・海の生物に関する知識を有する調査機関、NGO/NPO や専門家が主体となり、一般市民の参加のもと、海岸の生物を収集し、観察生物名・写真を記録
- ・地球温暖化や外来生物に係る指標生物の存在有無の確認
- ・調査結果は、(公財)環日本海環境協力センターが取りまとめ、ウェブサイトを通じて情報発信

d. 年間計画

6～7月 参加者の募集

7～8月 調査の実施

11月頃 富山県へ実施結果を報告

e. 期待される成果

- ・海岸に生息する海洋生物の北東アジア地域での分布状況の把握
- ・指標生物の生息範囲の把握
- ・海洋生物多様性、海洋環境の保全に対する意識の高揚

③ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請内容

- ・本調査を実施する調査機関、NGO/NPO もしくは専門家の選定
- ・調査機関との調査実施、結果報告に関する連絡調整

b. 経費負担の要請

既存のスキームを活用する等して、経費のかからない範囲で実施

(5) プロジェクト No. 5 「貝類を対象としたブルーカーボン青少年環境教育体験プログラム」(忠清南道)

① 目的

青少年の沿岸環境教育体験を通じて、沿岸生態系ブルーカーボンの重要性を認識するとともに、環境教育及び沿岸生態環境保全の重要性を改めて認識する。

② 事業内容

a. 実施時期

2019年2月～12月(約10ヶ月)

b. 実施場所

参加自治体の海岸、河川、湖沼など

c. 実施方法

- ・ 稚貝を放流(養殖)し、ある程度成貝になってから採取し、その成長を確認(放流時または実施期間中1回、採取時1回の計2回計測)し、炭素固定量を調査
- ・ 成貝になるまでに水中の炭素が体の中に貯蔵されていく炭素固定過程等を学習
<学習例>
 - 貝類の自然浄化機能学習
 - 採取した物で料理し試食体験
(炭素循環(養殖(生産)→採集(漁獲)→飲食(消費))に対する学習)
 - 貝塚及び貝塚博物館の見学
(貝塚の炭素隔離を活用し、ブルーカーボンの概念を理解、周辺環境及び実生活に適用できる方法について討論)

・ 結果報告

d. 年間計画

2～4月 稚貝の放流

～11月頃 成長具合の計測、炭素固定過程等の学習

12月頃～ 忠清南道へ実施結果を報告

e. 期待される成果

- ・ 体験活動及び教育学習を通じた気候変化及び海洋環境保全に対する認識向上
- ・ 漁村体験活動を通じて捨てられる貝殻に対するブルーカーボンの認識転換及び広報・教育に積極的に活用
- ・ 貝類の成分、含量分析などのデータを分析し、次期の二酸化炭素の低減政策策定の基礎資料として活用

③ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請内容

- ・ プログラムの企画、関係者との調整、参加者の募集等
- ・ プログラムを実施する団体等への指導、プログラムの実施
- ・ 調査結果の報告

b. 経費負担の要請

(a) 経費負担の有無

あり

(b) 経費負担の概要

現場調査費用及び体験キット購入費用など必要な経費は参加自治体による負担とする。

(6) プロジェクト No. 6 「フォトコンテスト “Eco-selfie – 自撮りで環境保護”」
(トムスク州)

① 目的

環境活動へ市民の参加を促し、環境保護文化を醸成する。

② 事業内容

a. 実施時期

2019年4月～12月

b. 実施場所

ロシアトムスク州

c. 実施方法

以下のカテゴリでコンテストを行う。

– “エコ なできごと”

環境保護活動の自撮り写真コンテスト。応募写真は1つのできごとにつき1枚のみ。例えば、植林活動；学校や、公園などでの清掃活動；動物や鳥の世話をしている姿、等。

– “私の国の動物たち”

自分の国に住む動物（1匹／頭）との自撮り。応募写真は1枚のみ。
(ペットや動物園などの動物は除く。また、危険な動物との自撮りは避けてください。)

– “ビフォー・アフター”

撮影者が行った行動の前後を写す写真。活動1つにつき2枚（ビフォー・アフター）まで。例えば、植林活動；学校や、公園などでの清掃活動；動物や鳥の世話をしている姿、等。

– “命の泉”

水の対象物(河川、泉、湖沼)の前での自撮り写真。応募写真は1つの場所で1枚のみ。

d. 年間計画

4～10月 写真募集

11月 写真の評価

12月 とりまとめ 賞品の送付

e. 期待される成果

・人々の環境活動への関与

③ 参加自治体への協力要請事項

a. 協力要請内容

(a) 開催自治体

写真の評価、優秀作品をウェブサイトへ掲載、優秀賞などの賞品を各自治体へ送付

(b) 参加自治体

作品募集、作品（氏名、タイトル等含む）を開催自治体へ送付、受賞者への賞品送付

b. 経費負担の要請

(a) 経費負担の有無

あり

(b) 経費負担の概要

・受賞者への賞品の送料

Ⅲ 次期コーディネート自治体

1 次期コーディネート自治体の希望調査の実施

- (1) 実施時期 2019年1月
 (2) 調査自治体 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会会員自治体 (20自治体)

2 調査結果

希望自治体 富山県

Ⅳ 環境分科委員会の活動計画

年月	内容
2018年9月	・2019年個別プロジェクト提案調査 コーディネート自治体が、2019年に実施予定の個別プロジェクトの提案調査を行った。
10月	・2019年提案個別プロジェクトの取りまとめ コーディネート自治体が、提案のあった2019年個別プロジェクトを取りまとめた。
11月	・2019年個別プロジェクト参加意向調査 コーディネート自治体が、北東アジア地域自治体連合の会員自治体に2019年個別プロジェクトへの参加意向調査を行った。
12月	・2019年個別プロジェクト参加意向調査結果の取りまとめ コーディネート自治体が、参加意向調査結果を取りまとめた。
2019年1月	・2018年個別プロジェクト実施状況調査 コーディネート自治体が、2018年個別プロジェクトの実施状況調査を行った。 ・「2016北東アジア自治体専門家会合とやま宣言」取組状況調査 コーディネート自治体が、「2016北東アジア自治体専門家会合とやま宣言」の取組状況調査を行った。
3月	・環境分科委員会報告資料の作成 コーディネート自治体が、環境分科委員会報告資料を作成し、北東アジア地域自治体連合の会員自治体に送付する。(※環境分科委員会は隔年開催) ・「2016北東アジア自治体専門家会合とやま宣言」取組状況調査結果の取りまとめ コーディネート自治体が、取組状況調査結果を取りまとめる。
(適宜実施)	・提案自治体と参加意向自治体が個別プロジェクトの実施に向けて協議する。 ・合意があった場合、適宜個別プロジェクトを実施する。
8月～	・2019年個別プロジェクト実施状況及び2020年提案個別プロジェクトの調査 コーディネート自治体が、2019年個別プロジェクトの実施状況調査を行う。 併せて、2020年に実施予定の個別プロジェクトの提案調査を行う。 ・2020年提案個別プロジェクトの取りまとめ コーディネート自治体が、提案のあった2020年個別プロジェクトを取りまとめる。
秋頃	・北東アジア地域自治体連合第14回環境分科委員会の開催 (議題)・これまでの個別プロジェクトの成果報告 ・2019年個別プロジェクトの実施状況 ・2020年個別プロジェクトの提案状況 ・次期コーディネート自治体の選出 等